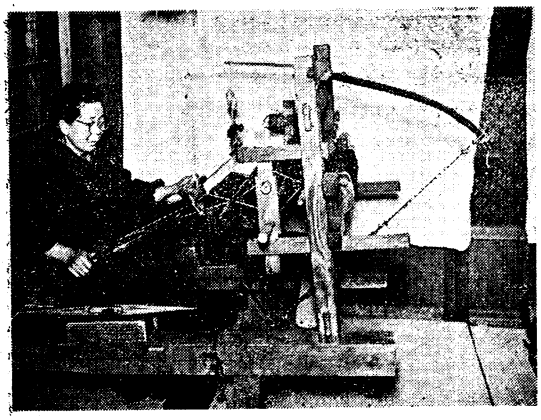
☆統計資料案内☆

資料名	調査年刊行年	発行者
人口		
全国年令別人口の推計	37.10.1	総理府統計局
都道府県，人口の推計	〃	〃
国勢調査報告（群馬）	35	〃
〃（神奈川）	〃	〃
〃（島根）	〃	〃
〃（熊本）	〃	〃
〃（福岡）	〃	〃
〃（千葉）	〃	〃
〃（鹿児島）	〃	〃
従業通学地に関する結果速報（群馬）	35	総理府統計局
〃（宮崎）	〃	〃
〃（福岡）	〃	〃
〃（千葉）	〃	〃
〃（奈良）	〃	〃
〃（山形）	〃	〃
経済財政		
漁業経済調査報告	36	農林省
物財統計報告農家経済調査	〃	農林省農林経済局統計調査部
個人企業経済調査結果速報	37 10～12	総理統計局
産業		
農家調査報告書	1960	農林省統計調査部
上層農の分析	〃	〃
農家生計費調査報告	36	農林省農林経済局統計調査
水産物流通統計年報	〃	農林省統計調査部
全国機械工業名簿	38年版	通商産業省
鹿島臨海工業地帯の造成に伴う農業経営改善対策の概要	38.3	茨城県
茨城県漁業の概要と沿岸漁業構造改善	38.3	農林水産部漁政課
教育統計報告書	37	総務部統計課
工業統計調査結果の概況	36	茨城県
教育統計報告書	37	総務部統計課

資料名	調査年刊行年	発行者
企業経営と賃金	38.3	茨城県経営者協会
モデル賃金調査結果報告	〃	〃
賃金水準物価家計収支の推移	〃	〃
昭和38年4月に於ける初任給の動向	〃	〃
最近の物価問題と賃金家計の動向	〃	〃
茨城県水産試験場試験報告	35年度	水産試験場
〃	34	〃
石岡市の商業	38	石岡市
主要農産物販売農家集計結家	35.2.1	総務部文書統計課
農業経済改善対策の概要	〃	
茨城の工業開発	1963	茨城県
徳島県勢要覧	38	〃
統計目黒	37	徳島県総務部統計課
岩手県勢一覧	38	東京都目黒区
図書目録 *No.* 2	37	岩手県
長野県統計書	35.36	愛知県総務部統計課
商業統計調査結果報告	38.3	長野県
毎月勤労統計調査地方調査結果報告	37報	徳島県総務統計課
兵庫県市町村別推計人口	37	労働大臣官房調査統計部
宮崎県の県民所得	36	兵庫県総務部文書統計課
兵庫県勢要覧	38版	宮崎県総務部統計課
工業統計調査結果表	36.1961	兵庫県
岩手県統計年鑑	36	大阪府
福井県市町村勢要覧	〃	岩手県
学校基本調査 保健統計調査 結果報告書	37	福井県統計協会
本県畜産農業の実態	378.1	島根県総務部統計課
学校統計結果報告書	37	千葉県総務部統計課
愛知県統計年鑑	38	徳島県
福岡県民所得報告書	36	愛知県
愛媛県総務部統計課	商業統計調査37	福岡県
昭和36年愛媛県民所得推計結果速報	36	愛媛県総務部統計課
愛媛県農家就業動句実態調査	3712.1	〃
兵庫県統計書	36	兵庫県
岡山県市町村勢要覧	37刊	岡山県統計協会
商学論集	38年	西南労院大学学術研究所
日本統計制度再建史		財団法人日本統計研究所
学校基本調査結果報告	37年度	大阪府総務部統計課

郷土産業めぐり (1)



〔　　〕

はじめに

今月号から「郷土産業めぐり」と題して商工労働部商工指導課の協力を得て，県下の産業で特産物といわれるものを順に紹介することになりました。ご存知のとおり本県には，本稿でご紹介する結城紬をはじめとして，笠間市の笠間焼，真壁，羽黒，稲田の石材，下館市の菓子など数々の特産物があります。これら特産物にはそれぞれの歴史と伝統があり，その地域の特色を物語ると同時にこれら特産といわれる産業が当面どのような問題につきあたつているか，さらに将来への発展性をどの程度期待してよいかなど，いろいろの角度から紹介してみようと考えております。

結　城　紬

プロローグ

化学繊維の進出で絹織物は昭和33年頃に不況に襲われたが，その後，和服の人気が急に高まり，最近では衣生活の向上もあつて異常な絹ブームを起こしている。

結城という地名からだれもがすぐに連想するものは，あのやわらかい手ざわりと，高級な色あいの結城紬でしよう。

結城紬のよさは，今日のようにオートメ化された時代にあつて，昔そのままの原始的な糸つむぎにはじまり，正藍の香りを染め，いざりはたの織り出すカスリの渋味をおびた精緻な模様にあります。

その歴史

今から約1,500年前を第1期時代といわれ平安時代中期に，当時常陸紬として知られていました。平安時代末期より鎌倉時代末期までを第2期時代といわれ，このころすでに諸国名産の一つに揚げられていました。南北朝時代室町戦国時代を経て桃山時代の初期までを第3期時代といわれ，乱世で地方の機業が衰えた時にも，常陸紬の名声は京都方面にまで知られていたということです。

室町時代に結城城主が年々幕府や鎌倉管領にこれを献上していたことから，ますますその名が知られるようになり，当時の結城藩主結城氏より時の朝廷へ貢物として献上するようになつて，ここに始めて結城紬の本名を使用し，貴重な織物として珍重されるようになつたのであります。

江戸時代天保改革のおり幕府は絹織物使用禁止令を発し，これにより庶民は木綿物以外を身につけることが出来なくなつた。その頃結城地方ではたびたび鬼怒川の洪水におそわれ綿が不足し，そのため領主はやむなく養蚕を奨励して真綿をひかせ，綿から糸をつむいだ技術を真綿に応用させ布地（絁…あしぎぬ）を織らせたところ，これが木綿のものと全く区別がつかないような布地が出来上つたので，幕府でもこれを着ることを敢てとがめなかつた。これが結城紬の簡単な歴史でありますが，朝廷への貢物や殿上人の間にしか用いられなかつた結城紬はその殆んどが無地のつむぎでありましたが，その当時の代官が振興策として信州上田から織工を呼び，京都から染工を呼んで，柳条紬などをつくり上げたといわれております。それ以来急速に庶民の間に用いられるようにな

つた。以上が第4期時代であり第5期時代は明治の中期になつて織り方にも改良が加えられ，ここではじめて絣（かすり）物が入り，雨絣，十絣，井桁，トンボ絣等の簡単な絣から，その末期には縮織も合せて生産されるようになり，現在のように全国にその技術を誇る結城紬となつたのであります。

どのようにしてつくられるか

結城紬は今でも昔から伝えられてきた手織によつている。まず「つくし」にかけられた真綿から「おぼけ」というものに手で糸をつむぎ出し，つむがれた糸は「かすりくくり」といつて好みの模様を出すようにくくり分けこれを染上げ，いざり機という極めて原始的な機械で織られるが，その工程は「糸撚り」だけがわずかに機械化されているだけで，あとは昔ながらの独特な手工業となつている。

結城地方の農家を訪れると，日あたりのよい縁側で孫の相手をしながら，真綿から糸をつむいでいるのどかな風景が見られる。また家の片すみでは主婦たちが「いざり機」の前に腰をおろし，よりをかけられたよこ糸と，よりをかけてないたて糸の面倒をみなから手足を巧みに動かし，素晴しい風合をもつた結城紬を織つている姿が見受けられる。結城紬の染め方は昔は藍を使用し，数十個の藍ガメを通さなくては独特の色と香りが出ないとまでいわれておりましたが，最近では全生産量の約一割位のものが愛好者のために，昔そのままの藍染めとなつております。

生産額は約7億円

結城紬の年間生産量は約3万反，金額で約7億に及びこの地方の農家では大きな収入源となつている。販売先は，京都，大阪など関西方面へ6割，残り4割が東京方面とその他の地方へとなつている。最高技術品になると反当り40万円という値段の方もとびきり高くなつて，サラリーマンなどには，ちよつと手が出ない。しかし，このような高級品は生産工程も大変なもので，一人で作るとすると完成するまでに250日もかかり，織るだけで，100日もかかるとのことであります。

今後の見通しと対策

所得の増大とともに若い女性は，結城紬など絹の着物を着る者が多くなり，デパートなどでは特設のコーナーなどを設け売り上げを伸ばしている，また来るべきオリンピツクには大勢の外国人が日本を訪れ，土産品としても相当の売り上げが見込まれるなど需要が増加することは目にみえているが，原料である繭の値段は史上初のキロ当り7,000円台をマークしており，カイコの飼料である桑は，一時の不景気から相当に整理され，これはそう急に増反することも出来ない。また養蚕そのものが非常に手間のかかることから，現在のように農村の労働力が年々失なわれ，働き手の少ない状況では養蚕家が減ることが予想され，事実統計からも，本県の養蚕家はピーク時である31年の22千戸から37年の15千戸へと大巾に減少を示している。

紬に対する需要増に対し，それをとりまく諸条件は，相当に厳しいものがあるようだ。

このような状況にあつて，去る昭和31年3月に国の重要無形文化財として指定を受け，県及び技術指導を担当する繊維工業指導所，市役所，産地の業者が一体となつて，量より質を目指して全生産品に厳しい検査を実施し特産結城紬の保存と振興に日夜懸命の努力をしております。

（茨城県繊維工業指導所）

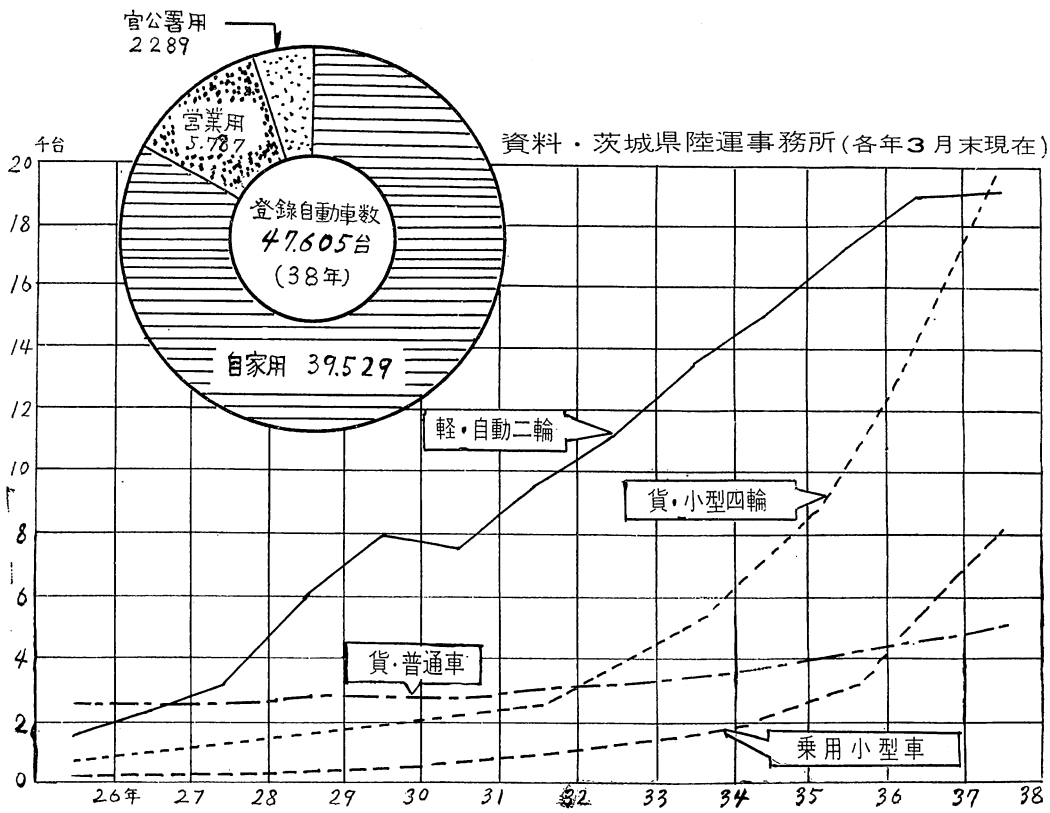
グラフにみる　増加する自動車

今も昔も同じはずの道路がこのごろ非常に狭く感じられることがある。毎日の新聞をみても各地でいたましい交通事故が頻繁に発生しており，その規模も次第に大きくなりつつあるが，これは道路が悪いこと，不心得者の運転者が多いということなどいろいろと考えられようがなんといつても最近急激に自動車の数が増えているということが主因であろう。茨城県陸運事務所の調べによれば，本年3月末日現在の本県下の自動車数は昨年にくらべ29,942両の増加で120,085両となつている。

そのうちわけは，登録自動車47,605両，小型二輪車507両，軽自動車71,973両である。登録自動車について車種別にみると貨物用小型四輪車が最も多く，20,584両で43%を占め，これについで貨物用小型三輪車22%，乗用小型自動車17%，貨物用普通自動車11%となつており貨物用が全体の76%を占めている。

さてここでどんな車名の車が多いかをみると，乗用普通者ではフオードとシボレーがともに全体の15%を占めている。乗用小型四輪車ではトヨペツトが最も多く8,043両のうち2,601両32%を占めこれにつぎダツトサンは27%を占めております。貨物用をみると普通車ではいすずの41%，小型四輪車でトヨペツトの39%，小型三輪車でダイハツ42%となつている。車種別のうごきをみると，グラフにみるように近年，軽自動二輪車，貨物用小型四輪車，乗用小型車のように小型車が急激に増加しております。これは最近における経済の高度成長によつて，個人商店や，中小企業などでどんどん車を持つようになつたためだと考えられます。またとくに小型車が増えているということは，買う場合に手頃な値段であること，せまい路字にも入ることが出来るということ，税金など維持費も割合に安くあがることなどが考えられます。

小型車の増加にくらべ，乗用，貨物用とも普通車はそれほどに増えておりません。貨物用の三輪車は35年の13,100両をピークにその後は減少傾向にあり，38年には，10,325両となつています。



人間雑話 (13)

茨城大学教授　塚本勝義

僕の教え子で本屋をやつてる男がいる。先日，店をうろついていたら，偶然彼に見つかり，裏の座敷に引き上げられた。彼は松下幸之助氏の自伝〔私の行き方考え方〕を持つて来て，なかなか面白い本だから読んでみたら，と勧める。渋つてると，いい部分に線を引いておいたから，そこだけでも読んでみたら，と強引に奨める。

仕方なしに借りて来た。そして，物はためし，と第一ページから読み始めた。頭にぴんぴん来る。でつち小僧から第一流の事業家にのし上がつた人物だけあつて，淡々と語る中に，いわゆる〔人間の真実〕が光りを発している。理屈なんか，ひとかけらもない。あるものは，人間の事実であり，そして真実のみ。読んでいると，自分という人間のだらしなさが，いやというほどよくわかつて，情なくなる。

松下氏が自転車屋の小僧をしていたときのこと。よくお客さんにタバコを買つて来てくれと頼まれる。やたらに申しつけられるので仕事のじやまになる。そこで氏は自分の小遣銭で，十個ずつ買つて来ておき，お客さんがタバコと言うと，すぐ出してやるようにした。もちろんお客さんに喜ばれた。変わつた小僧だと褒められた。

ところで，明治三十年代には，タバコを十個買えば，一つまけてくれることになつていた。だから松下さんはお客さんに喜ばれたり，儲けていたりしていたのだ。全くの正攻法で感謝されながら儲けたんだからすばらしい。これは技術ではない。俗に言う〔心がけ〕だ。伸びる人間は，この心がけが違つてる。

松下さんは，学校をやつた社員を眺めていると，学校をやつたために，だいぶ損している人もあるようだと言つておられる。確かにそうだ。学校をやつてプラスになる人とマイナスになる人とがある。くだらん理屈などを雷同しているばつかりに，仕事に身の入らぬ人がどれほど多いことか。学校だつて，やつたからいいのではない。やり方が問題だ。やり方をはずすとロクでもない一生にしてしまう。

○　○　○　○

〔わが小説〕の中で，尾崎一雄さんが，〔私は小説というものの定義がわかつていない。若いうちは今にわかるだろうなどと考えていたが，この齢になつてもわからぬところをみると，多分わからずじまいになるだろう〕と述懐しておられる。定義はわからんが〔暢気眼鏡〕のような傑作が書けた。定義なんか知らなくとも仕事は出来る好例だ。

商人とは何ぞや――と，判つたような理屈はたたけなくとも商売はできる。理屈なんか並べ立てる商人に限つて店が埃つぽくなる。公務員だつてこの例に洩れない。公務員本質論など展開する御仁に限つて，ヘマばかり仕出かし，仲間の嫌われ者となる。理屈の筋道を通すことよりも，仕事の能率を上げるのが本筋だ。理屈にかつこうつけることより，事実を明快に処理することこそ肝心なんだ。松下さんなども事実の処理で大事業家になつたはず。

どうも近頃の新進には理屈が多過ぎる。理屈は近代的かも知らんが，やることは甚だ非近代的だ。

○　○　○　○

やはり〔わが小説〕の中で，川口松太郎さんが，若い頃を回想しておられる。

直木三十五に，〔お前は何をやつても食いつぱぐれのない男だが，小説だけは駄目だから，今のうちにあきらめろ〕と言われたそうだ。菊池寛は〔川口は必ず一流作家になれる〕と断言したという。川口さんの能力について，直木は全面否定，菊池は全面肯定だ。同じ作家の批判が，こうも対立したんだから穏かでない。誰だつて迷う。しかし川口さんは，菊池の言葉を信じて作家の道に踏み切つたという。

ところで直木が亡くなると，彼を記念し，かねて大衆文学の興隆をはかるために〔直木賞〕が設定された。この直木賞の第一回受賞者が，なんと川口松太郎なんだから人生は皮肉だ。

人間の能力は一生暮してみなければ判らないだろう。〔死に花を咲かせる〕人などもあるから，死んでみなければ本決まりにならないかも知れない。

自分でもわからん。親兄弟も見当つかん。学校の先生のおつしやることだつて当てにならない。上役の見る所にしたところで信をおくのは危険だ。

たまたまめぐり合つた仕事に全力を尽くすのが本当の生き方だろう。無器用のようだが自己を生かす唯一の生き方だろう。当り外れは最後の結論にまかせて。